

水辺からやすらぎを、まちへ、ひとへ。

しなのがわりゆう

国土交通省 北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所

記者発表資料

Press Release

本資料の発表を以て解禁

令和4年10月26日

しまがみ 燕市立島上小学校児童が描いた 信濃川愛護看板の完成お披露目をします

信濃川下流河川事務所は、燕市立島上小学校の4・5年生児童と信濃川に対する愛護の思いを寄せた看板の完成お披露目の会を以下のとおり実施します。

日時 令和4年10月31日（月） 13:40～14:20

場所 横田切れ公園（燕市横田 下図参照）

参加者 島上小学校 児童（4・5年生 計31名）
横田地区自治会長、同前自治会長

行程

1. 開会
2. 制作発表（島上小学校 代表児童）
3. 除幕
4. 講話（横田切れについて）
5. 閉会
6. 記念撮影



<看板イメージ>

※取材、及び写真等撮影に関する事前申し込みは不要です。
お車でお越しの場合は、現地誘導スタッフの指示に従ってください。
取材の際は、マスク着用・手指消毒等の感染防止対策へのご協力をお願いします。

横田切れとは…

明治29（1896）年7月22日の午前4時、横田村（旧分水町・現燕市横田）の堤防が破堤した大水害“横田切れ”では、下流域の約18,000haの土地が泥海となりました。しかも9月、10月にも続けて洪水が発生し、復旧は12月になったといわれています。

下流域では電信によって事前に洪水の到来が知らされていたため、濁流によって流された死者は意外にも少ないという記録が残っています。しかし、長期にわたって川の水が引かないことから、人々は長い避難小屋生活を強いられ、水や食べ物、そして薬も救援を待つしかありません。さらに、日々悪化して行く衛生状態の中、伝染病によって多くの尊い命が奪われました。そして、この大水害を契機に大河津分水の必要性を訴える運動はさらに勢いを増し、ついに政府は大河津分水工事の実施を決断するに至りました。



<位置図>

<お問い合わせ先>



関屋分水
通水50周年
1972 - 2022

国土交通省 北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所

副所長（技術）北沢 茂樹、調査設計課長 金子 靖雪
TEL (025) 266-7131（代表） (025) 266-7319（直通）
FAX (025) 266-7105（代表）